

モデルプログラム G-1 日本語の特徴ー外国語として日本語を見るー

ねらい	担当教員・支援員が、日本語に関する知識を獲得し、外国語として日本語を指導する際に生かそうとする。
対象	<input type="checkbox"/> 教師を目指す学生(教員養成課程他) <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input type="checkbox"/> 現職一般教員(管理職含む) <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員/母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒等教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input checked="" type="checkbox"/> 2-4年 <input checked="" type="checkbox"/> 5年-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input type="checkbox"/> 捉える力(子どもの実態把握) <input type="checkbox"/> 捉える力(社会的背景の理解) <input checked="" type="checkbox"/> 育む力 (日本語・教科の力の育成) <input type="checkbox"/> 育む力(異文化間能力の涵養) <input type="checkbox"/> つなぐ力(学校作り) <input type="checkbox"/> つなぐ力(地域作り) <input type="checkbox"/> 変える/変わる力(多文化共生社会の実現) <input type="checkbox"/> 変える/変わる力(教師としての成長)
主な内容	G 日本語の特徴
活動形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義型 <input type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	60分
流れ(・項目)	活動(◇活動の工夫)
1. 日本語と英語の違いについて考える。(10分) ・外国語としての日本語(G)	1. 英語と日本語の様々な違いの例を挙げ、言語の次の要素のどれにあたるか考える。 ・音 ・文字 ・語彙 ・文法 ・談話・文章
2. 日本語の仕組みの全体を捉える。(20分) ・音韻、文字・表記、語彙、文法(G)	2. 1文をどこで分けられるか考え、日本語の仕組みの全体像を捉える。 例) 私/は/昨日/寿司/を/食べ/た。 私→わ/た/し わ→W/a ・意味をもつ単位(形態素) →その組み合わせで文が無限に作れる。 ・音の単位(音素) →その組み合わせで形態素が作れる。
3. 日本語の音韻面の特性について理解する。(10分) ・音韻、文字・表記、語彙、文法(G)	3. 日本語の音韻に関し、英語との比較を通して理解する。 ・「ラ」とr・l、「フ」とh・f等 ・schoolと「スクール」閉音節(子音で終わる)・開音節(母音で終わる) ◇アクセント(高低か強弱か)に触れてもよい
4. 日本語の文法面の特性について理解する。(20分) ・音韻、文字・表記、語彙、文法(G)	4. 文法面について形態素と統語に関して理解する。 1) 形態素と文の関係について、両言語の違いを理解する ・日本語は膠着語(語幹に意味を持つ接辞を累加する) 例) 食べたかった(食べる+願望+過去) ・英語は屈折語(語尾を変化させる) 例) I wanted to eat it. 2) 主語・目的語・動詞の語順を例に統語について両言語の違いを理解する。 ・日本語は 主語(s)・目的語(o)・動詞(v) ・英語は 主語(s)・動詞(v)・目的語(o)
5. 語の意味範囲の違いについて知る。(10分) ・音韻、文字・表記、語彙、文法(G)	5. 両言語の対応する語の意味範囲の違いを確認する。 例) 「ここ/そこ/あそこ」とhere/there 「行く/来る」とgo/come 等
備考	・短時間で扱うのであれば、1と2を取り扱う。 ・英語ではなく、子どもたちの母語との比較でもよい。

